

次号予告

特集 整形外科

腰痛診断に関する最近の進歩……………国立神戸病院・整形外科 片岡 治・他
小児骨折のリハビリテーションにおける

理学療法・作業療法上の注意点……………慶応大学 石田 暉・他

頸髄損傷四肢麻痺における機能再建術の

適応とリハビリテーション……………国療村山病院 小田 典雄・他

スポーツとローテーターカフ断裂……………横浜市港湾病院 高 沢 晴 夫

と び ら ………………都立松沢病院 秋 元 波留夫

講 座 交流分析(Ⅲ)……………聖マリアンナ医科大 深 沢 道 子

運動生理学

1. 運動生理学総論……………順天堂大学 体育学部 石 河 利 寛

プログレス 向精神薬の最近の動向

1) 治療効果の判定……………慶応大学 吉 田 弘 宗

リハビリテーション・インフォメーション

<新潟県>……………新潟大学病院 種 村 タ ネ

<岡山県>……………川崎リハビリ学院 古米 幸好・他

あ ン テ ナ 理学療法士・作業療法士教育に

関する関連法規(2)……………都養育院病院 松 村 秩

資 料 第16回理学療法士・作業療法士国家試験

—模範解答(Ⅱ)(1981年)

編集後記

たしか学会紛争が一段落した頃の精神神経学会だったのでしょうか、分裂病に関するシンポジウムがありました。「分裂病の研究自体が分裂している」といった意味の、土居健郎教授の発言に、目が醒めた思いをしたことがあります。恥しい話、この一言が、私の学会から得た最大の収穫だったのです。他にどんな発表があったか、もうすっかり忘れてしまいました。

「群盲、象を撫でる」の落し穴に陥らぬよう、自分がどこに立って分裂病を見ているか、他の人はどう見ているかを、少しずつ意識するようになったのも、この学会参加がきっかけになったような気がします。

さて、今回は精神科作業療法での大物、分裂病という巨大な Zig-saw-puzzle をとり上げてみました。総論をお願いした精神科医関氏を始め、平野、時武、安達の各氏は、いずれも分裂病という複雑怪奇なパズルに魅せられた方々ばかりです。分裂病患者と格闘する臨床家の悲哀と熱気を、各論文の言外に感じとって頂けたでしょうか。

また、宮崎氏のケース・カンファレンス報告も、タイミングよく分裂病の症例報告です。この論文も含めて分裂病に対する作業療法パズルをどうつなげるか、各読者の試みを期待しています。精神分析医岩崎氏の総合コメントも、このつなぎ過程への貴重なヒントを与えてくれています。

要注意期といわれる木の芽どきも過ぎ、5月の連休も終わると、バイオリズムも不安定な安定期に入ったようです。人間関係も一見安定しているかに見える時に意外なトラブルを秘めていることがあります。連載中の「交流分析」講座は、身近な人間関係を、ふっと振り返るきっかけになりましたでしょうか。職場や家庭で、今日一日に受けたストローク、送ったストロークを、つらつら思い浮べるのも、また楽しからずや……………です。ではお元気で。

(富岡 詔子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長五 味 重 春
埼玉県生活福祉部砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長津 山 直 一
東京大学教授・整形外科水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部荻 島 秀 男
リハビリテーションペ
イン(痛み)クリニック
かわらび診療所大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター寺 山 久美子
都心身障害者センター富 岡 詔 子
山梨日下部病院奈 良 勲
金沢大学医療技術短大福 屋 靖 子
筑波大学松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安 達 克 己

池 田 俊 雄

伊 東 元 夫

宇都宮 初 幸

大 丸 幸 翼

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

木 村 信 子

駒 沢 治 夫

佐 藤 馨 子

嶋 田 智 明

鈴 木 明 子

関 昌 家

高 橋 正 明

橋 屋 久 隆

橋 元 隆

藤 沢 しげ子

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

(担当 細田・西塚)